

11月8日(木)、本会の塩田謙三会長と高橋清悦専務理事、秋田県官公需受注対策協議会の佐々木鉄美理事が秋田県庁を訪れ、堀井啓一副知事に要望書を手渡し、高速道路ネットワークの早期整備や秋田港の整備促進、地元中小企業に対する優先発注等について意見交換を行い、早期実現に向けて取り組んでいただくよう要望するとともに、昨年提出した要望の中で、印刷物発注における最低制限価格制度や分離・分割発注が実現したことに対する御礼が述べられました。

また、木村宗敬総務部長、富田耕司建設部長、高橋勝弘出納局次長に対してもそれぞれ要望書を手渡しました。

要望書の概要は次のとおりです。



【堀井副知事(右)に要望書を渡す塩田会長】

1 高速道路ネットワークの早期整備並びに秋田港の整備促進

- (1) 日本海沿岸東北自動車道及び東北中央自動車道未開通区間の早期事業化及び早期着工
- (2) ・間隔の離れているインターチェンジ間に新たなインターチェンジを設置する等、高速道路と一般道路との連携強化
・高速道路での安全走行や明るい秋田を印象づけるのための道路照明(反射)設備の増設整備についての国への働きかけ。
- (3) 環日本海沿岸地域の国際物流拠点として、秋田港の整備促進

2 災害時における物資・燃料等の供給体制の構築

3 地元中小企業者への優先発注

- (1) 入札参加資格については、秋田県内に本社を置いていることを要件とする。
- (2) 地元中小企業の受注機会確保のための分離分割発注の積極的な推進
- (3) 地元資材の優先的な使用
- (4) 地元中小企業者の受注機会増大のための措置を講じることについて、市町村への周知徹底

4 適正価格による発注

5 県発注工事における発注時期の平準化

6 物品購入、印刷物等の官公需受注機会の確保



組合ティールーム

秋田県葬祭業協同組合

理事長 大嶋 秀夫 さん

○業界の現状について

当組合は、昭和48年に葬祭業者が棺や仏具等の共同購買や金融事業を主な共同事業として設立した組合です。現在は、通称“トワニー秋田”として26社で活動しており、来年、設立40周年を迎えます。

葬祭業界においては、他業種からの参入や葬儀の小規模化、さらに火葬の後に葬儀を行わない直葬という形態も年々増加しているため、経営環境が厳しくなっています。

○座右の銘について

私が大切にしている言葉は「お陰様」で、これに対応する外国語訳は無いそうです。どんなにIT化が進んでも、何事にも相手があり、結局は「人」と「人」との関わりになるのですから、常に「GNO(義理、人情、恩)」を大切に、まわりに感謝し、「お陰様」の心を持って、対応するように心掛けています。

○理事長としての抱負

競争の激しい業界ですから、自分で何とかしよう、自分から行動を起こそうという気持ちが大切で、私が全国の会議等で知った情報は組合に報告し、組合員に情報提供しているほか、組合員も積極的に資格試験に挑戦して、組合全体の知識・技術をレベルアップさせ、ライバルとの差別化を図ろうと取り組んでいます。創意と工夫、「お陰様」の心で、お客様の心に寄り添うサービスを提供するだけでなく、私共のサービスを通じて、伝統・文化・風習というものも伝えていきたいと考えています。

○趣味について

趣味は、旅行とゴルフです。好奇心が旺盛なので、国内・海外問わず出かけます。基本的に年中無休の業界ですが、会議の前や移動の空き時間に美術館に行ったり、映画を観たり、温泉に入ったり、出張先から脚を延ばして景勝地の写真を撮ったり、時間を見つけては自分なりに楽しんでいます。

